

たかね みほ
高根 美保さん

NPO 法人エコライフはままつ 理事
浜松市環境審議会委員

●もう一度訪れたい浜松に

もう一度浜松にというリピーターはあまりいない。例えば、京都のような観光地は、1年を通して見どころがあるが、浜松市はどの時期に訪れたら良いのかわからない。浜松市は面白みが足りないのではないか。浜名湖に行って、何をすれば良いのかわからないのが正直なところだ。浜松市の良さを市内外に、もっと発信して、「行きたくなるまち」、「住みたくなるまち」、「帰りたくないまち」と思われるようになってほしい。

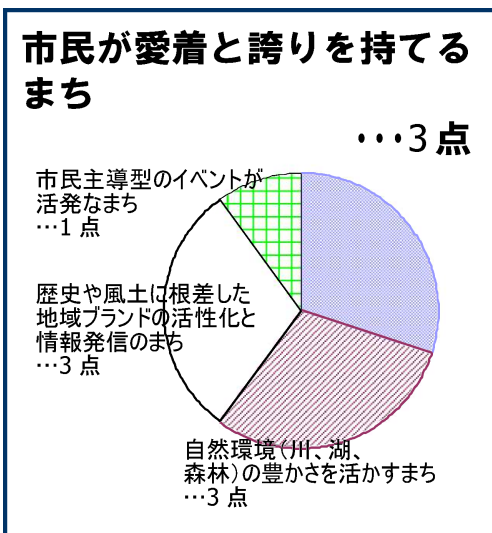


●浜松市の見どころをアピールして

浜松市が様々なイベントを開催しているところは良いと思う。しかし、他のイベントも含めて、参加者はどこにも寄らずに、帰ってしまう人が多いと感じている。イベントがその場で完結している。浜松市には魅力的(私は昨年動物園のイベントが好きでよく行っている。)なところがあるはずだが、あまり知られていないと思う。もっと点と点がつながる導線の工夫や宣伝を試みたらどうだろうか。

●楽器のリユース活動を推進させたい

楽器(リコーダーと鍵盤ハーモニカ)のリユース事業を行っている。しかし、あまり普及していないのが現状だ。NPO単独で楽器が集まっても、輸送費や送った先での指導などの必要があり、市民団体では海外の必要としている国を見つけることが難しい。リコーダーは、日本では使ったとしても義務教育期間の6年程度だ。しかし、リコーダーは約40年使うことができる。このような楽器を、必要としているところで使ってもらえるように、行政や民間にも協力してほしい。



【浜松市への期待度グラフ】

●将来 NPO 活動がなくなっている！？

今活動している NPO を通して、今後「西部清掃工場がどうなるか見ていきたい」という思いがある。これからの活動によって、ごみが減少し、将来清掃工場が建替えられる際には、規模が縮小されるようになって欲しい。そして、そのころには NPO のごみ減量としての取り組みは、「もうやることがない」となっていることが理想だ。そうなれば、ごみ関係の活動をしている NPO がなくなることになる。そんな未来になるように、市民が主体となって地球環境に配慮した生活を提案し、安全で住みやすいまちづくりを行いたい。

●「それだけ」でなく「+α」を

浜松市は、浜名湖をはじめとした自然環境や景観が素晴らしい。また、新幹線や東名高速道路など、東西のネットワークが充実している。ただ、個々には多くの観光資源があるが、他地域でも代替できる印象で、どうしても行きたいと思わせるようなインパクト、人を惹きつける魅力はまだ不十分だ。その結果、滞在されずに通過されてしまう。

本市の観光地を活かすには、単体ではなく、2日間楽しめる複合的な提案、「+α」の戦略が必要だ。



●音楽のまちとしてのブランド力を

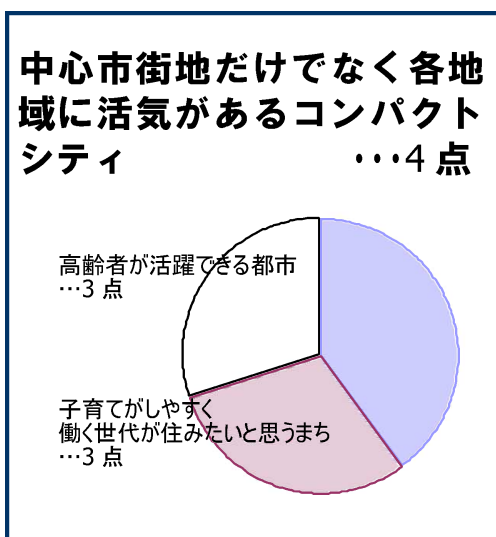
浜松は他都市に比べ、音楽が生活の一部となっている。子どものピアノのお稽古も一般的であり、身近に指導者もたくさんいる。また、浜松国際ピアノコンクールは若手ピアニストの登竜門として位置づけられている。さらに、浜松音楽友の会のような30年も続く任意団体があるなど、市民に音楽が根付いている。

音楽のまちウィーンを参考に、行ってみたい、住んでみたいと思われるブランド戦略が必要だ。例えばアクトシティは、エレベーター等、至るところに音符などを模したものをちりばめることで、コンセプトを明確にしている。そうした統一感のあるオブジェの設置や建物の修景により、訪れてみたい魅力あるまちづくりができる。

●防災教育の徹底

昨年度、区版避難行動計画が策定されたが、冊子配付後の周知はまだまだだ。南海トラフ地震の被害想定が出される中、防潮堤や津波避難タワー、耐震化などのハード面の対策はとられてきているが、個人個人の意識には未だ大きな違いがある。

例えば、区版避難行動計画を使用した出前講座を、小中学校で積極的に開催してみたらどうか。子どもの取り組みには親も関心を向けやすいだろうから、子どもから親、家族につなげて防災意識の醸成を図っていく。こうして30年かけて地震に備えていくことが必要だ。



【浜松市への期待度グラフ】

●きらきらしたまちへ

今の高齢者は元気なので、今後の超高齢社会においては、高齢者の活力と知識を活かすべきだ。例えば、若い世代が子育てと仕事を両立できる環境づくりに子守などで協力すれば、高齢者の役割ができ、地域全体で子育てを担うコミュニティづくりにもなる。

小学2年生の娘に未来の浜松がどうなってほしいか聞いたところ「きらきらしたまち」という答えが返ってきた。若い人が戻ってきたくなくなるような、魅力あるまちになってほしい。

たかはし

高橋 ひょうまさん

市内企業勤務

●マイノリティへのサービスを忘れずに…

優先順位は仕方がない…。

浜松では、「外国人＝ブラジル人」のイメージが強い。スーパーでもゴミ置き場でもポルトガル語の表記があり、その他あっても中国語。ブラジル人優先の外国人サポートが目立ち、少数派外国人へのサポートが弱いと感じる。

外国人への平等なサービスは理想だが、行政の予算には限りがあり、人口比率による優先順位は仕方がない。日本人が1番。その次はブラジル人。その中で、少数派のことを忘れずに、将来でも良いので必ず対応してほしい。

喫緊は医療分野でのサポート。生命に関わることであり最近の医療現場では1つずつ患者に確認しながら治療等を行うため、言葉が通じないと対応ができなくなってしまう。

●日本に来たなら日本語を！

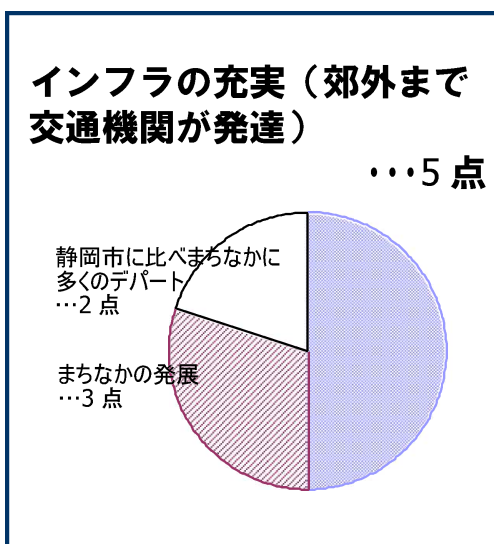
日本に来たなら日本語を覚えるべき。

ただ「不便」「暮らしにくい」などの不満だけを漏らす前に、ゲスト側も日本の言葉や文化を理解すべき。その上で提案・意見を口にし、両者の妥協点を見つける。一方的に何でもマイノリティに合わせて何かを変えろというのは、弱者の立場を利用した暴力になりかねない。

相手のことを理解し、折り合いをつけ、お互いが納得して、共に共存していくことが重要と考える。

●子どもにバトンをつないでいく

言葉、文化、生き方など、親から受け継いだバトンを子どもにつないでいきたい。



【浜松市への期待度グラフ】

個人や個性が重要視され、人とのつながりが希薄化している気がする。子どもが、人との接し方や距離感を学べるのは学校だけ。そして、在日外国人労働者の収入は皆さんの想像よりはるかに低い。高校や大学の進学率を上げるため、受け入れ枠の拡大や奨学金の充実をお願いしたい。

将来を支えていく子どもたちに、多くの選択肢を与えたい。

●もっと HICE をアピール！

HICE が心の拠りどころとなってほしい。

外国人への制度やサポートの充実より、マイノリティでも相談できる場所があるという安心感が重要なので、もっと HICE の存在自体をアピールしていくべきだと思う。



【高橋ひょうまさん】
多文化共生のためには人と人が折り合いをつけてつながっていくことが大事と語る。

たかみ さなえ
鷹見 早苗さん

浜松市西区協議会委員

雄踏まちづくり会委員

●これからの浜松市には市民の力が必要

これからはソフト面、特に社会福祉の分野では市民ボランティアの力が必要になってくる。企業が有料の福祉サービスを提供しているが、その報酬を支払うことが難しい方々もいる。また、世代間が助け合うことで、安心、安全なまちづくりをしていきたい。ボランティアの存在を知らない方もいらっしゃるの、浜松市には、各分野でのボランティア育成と窓口の拡充、PRに力を入れていってほしい。



【鷹見早苗さん】
世代間の壁がなく、多様な世代が共存できるまちづくりが必要と語る。

●Uターンしたくなる浜松市へ

浜松市には、大学も多くはなく、進学先として大都市圏を選択する学生も多いのではないかと感じる。技術系以外の仕事も少ない。また、郊外が発展していく中で公共交通機関が発達しておらず、交通インフラ、ルールも不十分だと感じる。高齢者は不便を感じるだろうし、自転車を利用している学生は、危険を感じる場面も多い。公共交通機関の金銭的負担も少なくない。

今後、雇用面と都市基盤が充実すれば、若者がUターンして地域の力が向上するのではと考えている。

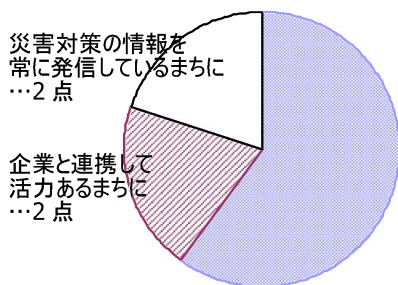
●世代間の思いやりが大切

浜松市には、各世代が安心、安全で暮らせるまちになってほしい。自分の世代のメリットだけを意識して、まちづくりの要望をしてはいけないと考えている。それぞれの世代がそれぞれできることがある。特に災害時の対応においては、昔の方々の知恵を是非お借りしたいし、中学・高校生の若い力も活用したい。時には違う世代のための施策もあるだろうが、お互いを思いやりながら世代間で協力し合えるまちづくりをしていきたい。

また、浜松市には一流企業が多く存在するので、地元企業の方々にも協力をお願いしながら「浜松市だからできること」を発信していってほしい。

すべての世代が安心、安全に暮らせるまちに

…6点



【浜松市への期待度グラフ】

●地域コミュニティの重要性

自分自身が子育てを経験してみて、雄踏町は子育てがしやすいまちだと感じた。雄踏町が、子育て教室など多く主催し、地域では熱心に子どもパトロールも実施しており、母親としては安心できた。地域内での交流も多く温かいまちだ。

合併して、全体最適の追求は必要なことである。ただ、地域には地域の特色ある文化があり、例えば雄踏町には雄踏歌舞伎などの伝統が残っている。昔からの文化や伝統を守るのは、地域コミュニティであり、今後も地域のつながりが益々重要になってくる。

たかやま はるき
高山 春樹さん

市内企業勤務



●まちなかにワクワク感を！

広大な無料駐車場を備え、映画館も併設したショッピングモールなどが郊外にあり、わざわざまちなかに出てくる魅力がなくなった。

しかし最近では、街コンやほろ酔い祭りなど、日曜日や平日の夜の閑散としたまちなかを盛り上げるイベントが成功している。

まちなかを活性化させるイベントを市民から募集したり、日本人と外国人が交流できるイベントをまちなかで開催したりして、まちなかを盛り上げてほしい。

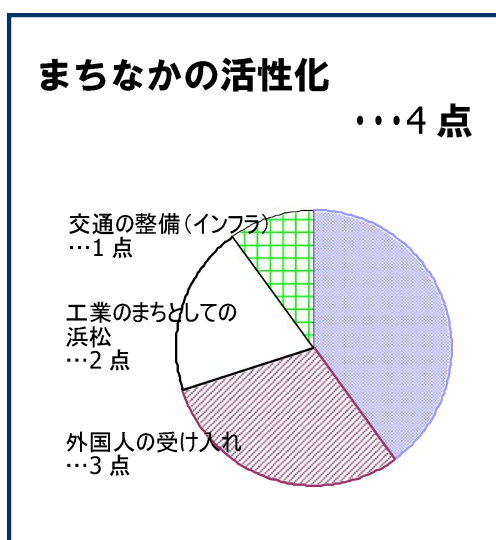
なお、郊外の住人にとっては、最終バスの時間が早いことも難点である。

●きっかけづくりが重要！

勤務先の関連で、まちなかの花壇を整備する「鍛冶町通り花飾り」やまちなかのゴミ拾いを行う「エコまち倶楽部」に参加した。「鍛冶町通り花飾り」では、都市緑化フェアが同時開催でダンスなどもやっていて結構楽しかった。

行政等のイベントは、参加してみると意外と楽しめ、何かのきっかけで1回参加すれば、継続して参加してもらえと思う。

浜松は暇つぶしをするところがなく、日曜日にやることがないということをよく耳にする。このような若者に、休日の過ごし方としてイベント情報を上手に発信できれば効果的ではないか。広報はままつが、若者や子ども向けの情報誌となっていないことから、ツイッターやフェイスブックを活用したり、学校等へ定期的に情報誌を配布したりするなど、情報発信に工夫が必要である。



【浜松市への期待度グラフ】

●フラッと立ち寄りやすい場所に！

浜松は、市域全体に観光スポットが点在しているため、市内を周遊して楽しむことができるが、一方でインパクトのある観光スポットが少ないため、観光地として中途半端という感覚は否めない。

今後は、東京と大阪の間に位置するという好条件を活かし、観光情報を上手に発信することで、通過点ではなく、フラッと立ち寄りたくなる場所にしていきたい。

同じく今後の課題として、土地利用の規制を緩和し、調整区域に工場などを建設できるようにしてもらいたい。工場は雇用を生み出し、雇用拡大が犯罪の減少につながる側面もある。

たかやま
高山 ゆき子さん

多児サークル ころころピーナッツ代表



【高山ゆき子さん】
双子中心のサークルには、13組ほどが参加。季節行事や遊びを活かした支援を実施。双子の母。

●自然の中で遊ばせてあげたい

浜松を転勤で訪れている方から耳にするのは「住みやすい」という声。浜松には、海と山を含む豊かな自然があり、気候もよく、その中で子どもたちを育てることができるからだろうか。子どもたちが中学生になると部活や勉強で忙しくなるので、せめて小学生のときだけでも思う存分、自然の中で遊ばせてあげたいと思う。

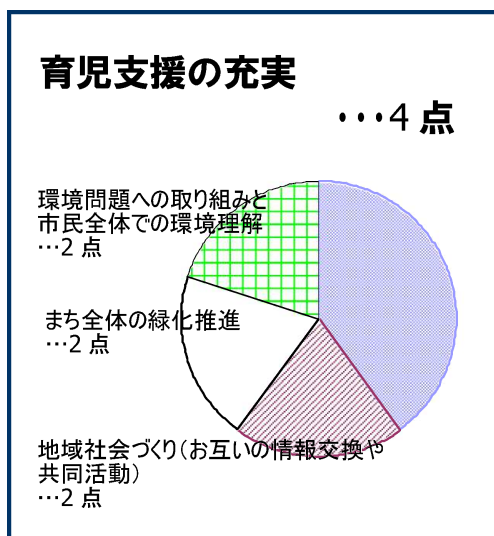
●笑顔で楽しめるサークルに

最近、多児が多く見られるように思う。子育て支援の場があっても、忙しい日常の中で、一歩踏み込むことのできない親も多い。サークルでは、多児を育てる際の何気ない愚痴が言えたり、情報交換ができたりする場として、子どもたちへの絵本の読み聞かせや季節の行事を取り入れた遊びを中心に活動を進めている。参加してくれた親からは、サークルで話し合え、救われて、子育てのアイデアも得られ、特に家で家族に優しくなれたとの声もある。

子育てが思いどおりにならず、悩んでうつに近い状態になる方もいるので、今後は地域の方や保健師の皆さんとも連携をとり、サークルに来てくれる保護者や子どもたちが笑顔で楽しめるサークルを目指したい。

●負担が大きい保育料と見つからない就職先

他のまちと比べて、公立幼稚園の少なさが目立つ。私立幼稚園が決して悪いとは思わないけれど、多児の保護者にとって、高額な保育料が2倍、3倍となるケースもある。金銭面での負担が大きく、パートで働かざるを得ない母親も少なくない。さらに、子育て期間が仕事上のブランクとなり、新たな就職先が見つからないこともある。少子化が騒がれる中で、子どもを望む夫婦にとって、保育料や就職の対策も必要ではないだろうか。



【浜松市への期待度グラフ】

●レトロな建物を残し、家康公の活用を

取り壊された児童会館や旧浜松測候所（气象台）の建物のレトロな雰囲気が好きだった。歴史ある建物の価値を認めて、レトロな建物を残して行ってほしい。そんな建物が似合うまちとして、市民全体で環境意識を高め、街道に落ちているごみや空き缶のクリーンアップを実施していく必要がある。

浜松には、家康の散歩道にある浜松城や東照宮、犀ヶ崖など、家康公ゆかりの場所も多いので、もっと活用してってもらいたい。それから、大人も子どもも楽しめて、体験できるような新しい美術館ができればと期待している。

たぐち たける
田口 剛さん

ウェブ&グラフィックデザイナー

NPO 法人しずおか包括ケアネット e-ライフ支援 所属



●自然豊かで環境に恵まれた政令指定都市・浜松

浜松市の自然といえば、中田島砂丘、浜名湖、天竜川、北には広大な森林…と、浜松市域には、日本の自然が一通り揃っている。また、日照時間も長い特徴があることが大きな強みといえる。これほど環境に恵まれた地域はなかなかないのではないかと。

しかし、広大な市域であるが故に、旧浜松市とその他の旧市町との間の一体感が、未だ低いのではないかと。旧市町を盛り上げるため、イベント等の活動の活発化が望まれる。

●これからのまちづくりのキーワードは「防災・雇用・教育」

静岡県第4次被害想定が示されたが、今すぐ取り組むべき短期的な対応とともに、今後、中・長期的な視点でも防災対策に取り組む必要がある。特に、津波対策は市民が安心して暮らすためにも、重点的に取り組むべきである。

また、働くことに興味がなく、その日暮らしの若者がいる。将来の浜松を担っていく世代であるので、雇用対策、教育に力を入れるべきである。雇用対策という点では、若者が魅力ある企業に出会える、あるいは自分のやりたい仕事が発見できるように、就業体験の充実など、行政としても取り組んでほしい。

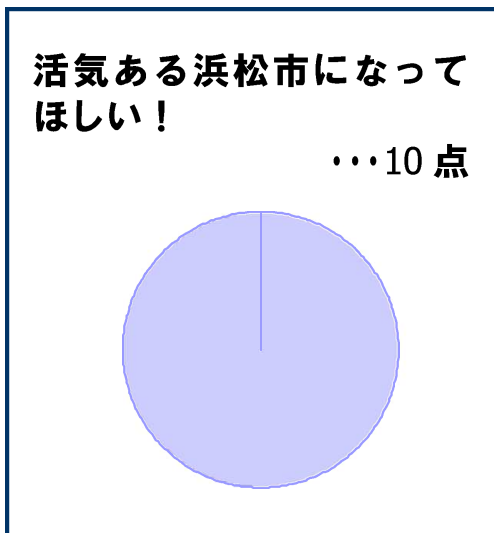
●「終活」は“人生の最終章”を明るく前向きに過ごすための活動である

自分の人生の終末のためにする活動のことを「終活」と言うが、私が所属する NPO 法人では、シニアライフをよりよく送ってもらうお手伝いとして、「終活」を勧める取り組みをしている。

「終活」というと、一見ネガティブなイメージを持つかもしれないが、人生を前向きに、主体的に送るための活動である。それが今をよりよく生きることにつながると考える。例えば、一人暮らしの高齢者が増えているが、その方たちが対象の「婚活」なども反響がある。シニアライフを前向きに過ごす、良い例だと思う。

また、「葬祭」も最近は様々である。最近は火葬のみを行う「直葬」が増えているが、費用が安いから選ばれているのではなく、家族のみでひっそりと最期を送りたいという思いから選ばれているようだ。他にも、故人の個性に合わせた「家族葬」など、ニーズもプランも多様になってきている。

今後の「超高齢社会」を見据え、市民一人ひとりがシニアライフを前向きに捉え、考えてほしい。



【浜松市への期待度グラフ】

たくま きょうこ いながき えみこ
田熊 恭子さん、稲垣 恵美子さん

NPO 法人 親支援プログラム研究会



【田熊恭子さん(左)、稲垣恵美子さん(右)】
2008年に法人化。「ノーバディズ・パーフェクト」のファシリテーターなど複数の資格を持つ。会員32人。

●誇大なくらいにアピール力を高めて

浜松は、自然環境に恵まれ、四季折々の野菜、フルーツ、魚などがとれて、食べ物の旬を楽しめる地域。他の都市に行って初めて感じた自然のありがたさがある。この地域をどうアピールしていくかがとても重要となる。例えば、餃子や音楽のまちとして、誇大なくらいアピールしてやっと伝わるのではないか。遠州地域の人間性なのか、はずかしいっていうのもあるけれど、もっと突き抜けた感じが必要だと考える。アピール力を高め、積極的に売り出していかなければ伝わらない。浜松はいいところだに！

●あったらいいな全大学生の社会体験

こんなに大学があるまちというのもすごい。就職しても現実とのギャップからか、すぐに仕事をやめてしまう新入社員もいると聞く。そこで社会体験として、キッザニアの大学生版のようなものはどうか。大学の3、4年生でインターンシップとして、企業体験をすべての学生が行う仕組みである。イメージで就職を選ぶのではなく、ライフスタイルで選ぶことが長く続けられる仕事選びのコツとなる。企業では優秀な人材を集めることができ、学生としても就職先を選ぶ際に役立てることができるメリットがあるはず。つまり、人育てのまちですね！

●子育て支援は自立支援

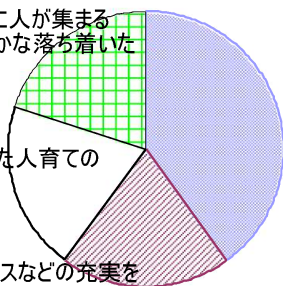
子育ての仕方が分からないのは、当たり前で最初から完璧な親なんていない。当研究会では、子育ての仕方、しつけについて考え、親（援助者）に子どもを自立させることを考えた子育てをしてもらうための活動をしている。子育てでは、日常の積み重ねと、少しずつカタチにしていくことが大切。活動を通じて、子どもたちが30年後に幸せでいてほしいと思う。そして、ひきこもらず、社会に出て世の中で役立つ、納税者に多くの人になっていることを願っている。

他人とのつながりを持つ まち…4点

中心地街地に人が集まる
ことにより、静かな落ち着いた
まちに
…2点

大学を活かした人育ての
まち
…2点

歩道、電気バスなどの充実を
…2点



【浜松市への期待度グラフ】

●研究するプロ集団として続けたい

子育て支援活動をしている仲間たちで立ち上げた研究会。今では保育士や幼稚園教諭、各講座のファシリテーターなど、資格を持つプロが集い、4つの親支援プログラムを提供している。例えば、コモンセンス・ペアレンティング（CSP）では子どもとのコミュニケーションの取り方やしつけの方法を具体的に分かりやすく学ぶことができる。

今後も親の愛を伝え、丁寧にしつけをして、子どもに語りかけながら、自立をさせていくための支援を続けていきたい。

たけうち しげる
竹内 茂さん

宮口まちおこしの会会長

(写真:左から阿部恒一さん、竹内茂さん、辻村昌男さん
太田富次郎さん、鈴木齊さん)

●まだまだ発展の可能性のあるまち

浜松市は、山、川、海、湖など、自然が豊かである。浜北区においては、浜北森林公園が素晴らしい。

宮口には天竜浜名湖線の駅もあり、新東名高速道路開通の影響で交通量も増加した。資源はあるのでまだまだ発展の可能性があると考えている。祭りも盛んで、地域住民の交流が活発である。

●まちなかに行く手段がない！大変！

浜松市は、公共交通網が未熟ではないか。まちなかに遊びに行きづらいし、遊びに行きたいと思わせるものも少ない。音楽のまちを標榜しているが、同様の理由で音楽を身近に感じる機会も少ない。また、一人暮らしの高齢者にとっては、日々の買い物にも苦勞してしまう。

地域の力で、一人暮らしの高齢者が集まる場をつくり、ゲーム、お茶会、食事会、買い物ツアーなどの企画もしているが、公共交通網の発達、交通弱者には重要である。

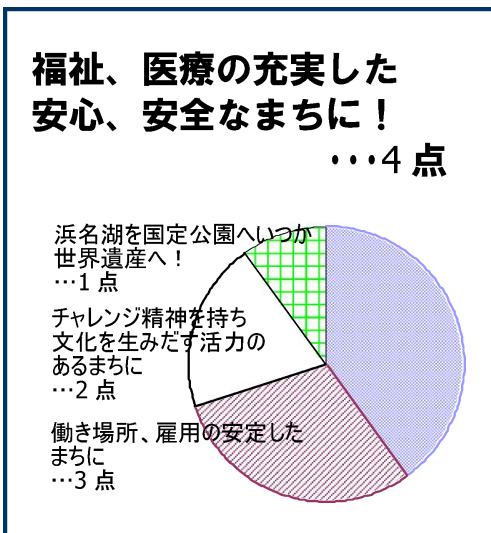
●地域の良さを積極的に発信してほしい！

浜松市の病院には、他都市からも診療に来る方がいるくらい、医療に関しては充実しており雇用面も現状はそれほど悪くない。将来に向けても、医療、福祉を充実させ、高齢者が元気に安心して仕事ができる環境を整えてほしい。若者は稼ぎ、高齢者は地域に貢献していくサイクルができれば、地域社会も安定するのではないか。

基本的に浜松市は、安定した社会を形成していると感じている。しかし、より活性化していくために、例えば浜名湖の食材、環境資源や天竜浜名湖線のインフラ資産など、地元の間では気づかないような地域の強みを発信していくことが大切である。加えて、文化都市という面が弱いと感じているので、新しい文化の創造にもチャレンジングに取り組んでほしい。



【宮口まちおこしの会の皆さん】
天浜線の沿線は財産。防災対策としても使える貴重なインフラなので、活性化を真剣に考えていきたい。



【浜松市への期待度グラフ】

●手応えを感じている“まちおこし”

地元の歴史、文化的財産は地元の間が守っていくべきものだと考えている。宮口は万葉の時代からの歴史あるまちなので、地域で守っていききたい。歴史的な地域文化にスポットライトを当て、みんなで再発見、掘り起こしをしていきたい。

宮口まちおこしの会は、年々参加者が増えており、若者の参加者も増加してきている。楽しい仕組みづくりができれば、若者も興味をもって地域活動に参加してくれる。その地盤を築き、次世代に受け継いでいきたい。

たしろ つよし
田代 剛さん

株式会社東海トラベル代表取締役社長

●目指せ！スポーツコンベンション都市浜松

浜松市は市域内に海、砂浜、川、山があり、温暖であり、日照時間も長い。地元に住んでいると、この価値に気づかないが、これほど環境に恵まれた地域はなかなかない。

このようなメリットを活かして全国のスポーツ活動を誘致したい。プロ野球のキャンプの例でも明らかのように、スポーツ合宿はリピート率が高く、「出世の街」とのコラボレーションで、浜松で合宿を行うと強くなれるといったジンクスが生まれれば、スポーツコンベンション都市として、多くの方が訪れる。



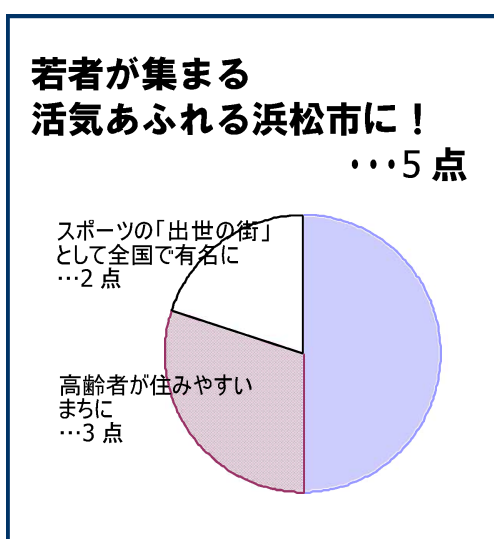
●誰もが健康で、活気あふれる街に

高齢者の割合が高まっていく中、高齢者に対して医療面や福祉面などでの住みやすさを充実させることが必要である。私も地域の方々が一体となって持つて取り組めるスポーツの場を提供しているが、健康について考えていくことで医療費減にも繋がっていく。

●館山寺をビーチパークに

スポーツはプレイヤーだけでなく、観戦している方も一体感が味わえることが最大の魅力である。私自身もビーチラグビーを現役で続けており、スポーツの持つ魅力を体感している。

観光業の視点で考えると、館山寺の浜名湖岸をビーチパークにすることができれば、景観も更に向上し、ビーチスポーツでも賑わう。ビーチパークを活用した着地型の旅行商品により、若い旅行者が増え、まち全体が活気に溢れる。



【浜松市への期待度グラフ】

●おもてなしの気持ちが伝わる観光地に

会社では、参加者の満足度を高めるために、社員の専門性を最大限に活かしたおもてなしをしている。大手の旅行会社では気づかないような点にも配慮することにより、口コミで評判が広まり、スポーツ合宿の誘致は年々増加している。

初めて浜松市でスポーツ合宿を行う団体への補助があれば、リピート率も高いため、効果的である。

また、海岸や山などの観光資源に対し、清潔なトイレの設置など、おもてなしの気持ちが伝わる施設整備があると、リピート率はさらに高まり、活気あるまちになる。

たちから つよし
田力 剛さん

横尾歌舞伎保存会

●地域の活動となっている横尾歌舞伎

横尾歌舞伎保存会は、一声かければ 20～30 人ほどの人が集まる体制にある。参加者の年代も 20 代後半から 80 代までと幅広く、また、井伊谷小学校と奥山小学校の小学生に募集をかけて少年団を結成し、秋の本番に出演してもらうなど、地域ぐるみの活動となっている。

保存会に入ってから、地域の人顔を覚えるようになり、話すようになったことで、自分と地域とのつながりが強くなったと感じる。また、横尾歌舞伎が高齢者の活躍の場となっており、保存会の高齢者は元気である。公演を他の地域から見に来る人も増えており、地域の活性化につながっている。



[田力剛さん]
横尾歌舞伎保存会に所属。週 1 回の三味線の稽古も受けており、質の高い公演になるよう研鑽を続けている。

●伝統文化を引き継ぐために

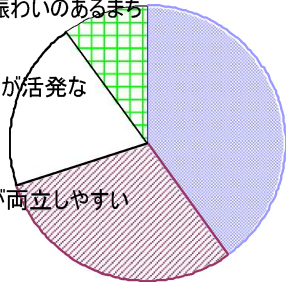
農村歌舞伎を行っている保存会の中には、一度途切れたものを復活させたところもあるが、復活させた当事者が高齢化し、後継者の確保に苦労しているところも多い。横尾歌舞伎は江戸時代から一度も途切れることなく行われてきた。地域に根付いており、活動する人数も多く、後継者が不足しているということはない。しかし、師匠と呼ばれる人たちが持っている演目のうち、2～3 割程度しか実際に上演されていないため、すべての演目が相伝されないといった問題がある。古くからある横尾歌舞伎独自のかたちを残し、活動が先細りになってしまわないように、5 年以内には引き継ぎたいと考えている。

各分野の産業が今以上に発展するまち…4 点

山間部など周辺地域それぞれの特色を活かし賑わいのあるまち
…1 点

伝統文化活動が活発なまち
…2 点

子育てと仕事が両立しやすいまち
…3 点



【浜松市への期待度グラフ】

●特産品のブランドを残すために

浜松市には、農業、工業などの面で様々な産業があり、特産品も多い。実家が農業をしている関係で、畑が減っていること、農業の担い手が高齢化しているなどの問題を抱えていることを知っている。特産品を育ててきた人の技術を次の世代へ伝えることができないと同じレベルのものをつくることができず、ブランドを維持できなくなってしまう。横尾歌舞伎のような伝統文化と同じように、産業についても次の世代に引き継ぐことを重視しなければならない。